

令和2年5月11日

医療機関の長 殿

茨城県医師会会長 諸岡 信裕

「新型コロナウイルス関連感染症:第36報」

第11回都道府県医師会新型コロナウイルス感染症担当理事連絡協議会について

5月8日(金)に日本医師会TV会議で開催されました標記会議の要点をお知らせします。

1)喫煙者のパルスオキシメーターの測定値が真の値より高くなることがあります。

日本禁煙学会は、喫煙者のパルスオキシメーターの値に注意が必要と呼び掛けています。それによりますと、毎日喫煙する患者さんでは、血中 COHb の影響で、パルスオキシメーターの見かけ上の値が高くでるので、それを割り引いて考える必要があるとのこと。毎日20本程度吸う患者さんで測定値が5ポイント程度高くでますので、測定値が95%であっても実際には90%ということです。ただし2日間禁煙すると正常に戻るそうです。

2)唾液によるPCR検査の開発が進んでいます。

北海道大学で唾液によるPCR検査の開発が進んでいることが紹介されました。患者さんが自分の唾液を自分で容器に入れて提出すれば検査できるので、検体採取における感染の危険性を著しく減ずることができ、期待されています。説明では、発症後2週間以内では通常の鼻咽頭による検査と100%一致し、それ以降は唾液の方が早く陰性になる傾向があるということでした。唾液検査で陰性になれば感染性がなくなることが証明できれば退院などの判定の面でも有用性がありそうです。

3)レムデシビルは当分の間、公的管理下での投与されることになります。

報道でご承知のようにレムデシビルが特例承認されました。承認の根拠となった1,063例の無作為二重盲検の臨床試験では、回復までの中央値が投与群11日、プラセボ群15日でした。ただし、死亡割合は投与群8.0%、プラセボ群11.6%で、やや投与群で低いものの有意差はみられませんでした。本剤はメーカーから無償で提供されている間は、患者の負担なく、先進医療など保険診療と保険外診療との併用を認める、評価療養に該当するものとして使用可能です。特例承認は時限的で、今後有効性、安全性の検証が続けられます。

4)医療機関の経営状態について報告がありました。

日医の緊急的な調査で本年3月の保険請求点数は昨年3月に比べて約20%の落ち込みだったと報告されました。4月はさらに落ち込んでいるものと予想されています。

守谷慶友病院(守谷市)の救急外来・一般外来の再開について

令和2年4月28日に守谷慶友病院(守谷市)の医療従事者の新型コロナウイルス感染が確認されことに伴い、外来・入院診療及び救急車の受入れが停止されておりましたが、5月7日(木)より再開されていると、茨城県保健福祉部より本会あて通知がございましたので、ご連絡申し上げます。